

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 天棚

今月紹介するのは西木代に残る「天棚」です。天棚とは「天祭」というお祭りで使用される彫刻屋台のことですが、まずは天祭について説明しましょう。

天祭は「風祭」「御天祭」「天念仏」「天道念仏」とも呼ばれ、もともと太陽をはじめとした大自然の神様に対する信仰のお祭りです。天下泰平・風雨順調・五穀豊穡・家内安全を祈るために行われていました。特に、このお祭りが行われている旧暦の8月1日の頃は、台風が頻繁に来る頃であり、農家の方々は、苦勞して育ててきた農作物が、台風によって台無しにならないように、神様にお祈りをしたのです。きれいに飾り付けされた天棚の周りを、「センドウ センドウ」と唱えながら、大勢の人々が練り歩く光景は、非常に特徴的でありま

なお、分布範囲は関東地方から東北地方の広い範囲にわたります。

このお祭りは、もともと山で行われていたものと考えられています。村人は山に登り、日の出を待ってお祈りをささげたり、梵天をたてて棚を作ってお供え物を供えお祈りしていたものが、次第に村人の代表だけがお祈りをするようになり、やがて、山頂に行くことがなくなり、そして天棚のまわりで、お祭りをするようになったといわれています。

西木代の天棚は高さ約3m、間口約1.8m、奥行きは2.7mもある組立式二階建ての立派な屋台で、周りの彫刻は非常に素晴らしいものです。地元に残る伝承によれば、この天棚は江戸時代末期から明治初期にかけて活躍した篠原要次郎によって作られたということです。上三

川町内では以前はいくつかの地域で、天棚を使った天祭が行われていたことが確認されていますが、現在残っているのは西木代のみということになります。

科学が発達し、自然現象に対する畏敬の念が薄れている現在では、残念ながら古くから人々の暮らしに根付いている信仰やお祭りに対する、人々の関心は薄れています。しかし、長く受け継がれた伝統をしっかりと次の世代に継承することこそが、私たちの役目なのです。



2階建ての西木代の天棚

明治時代							江戸時代							時代					
1877	1876	1875	1874	1873	1872	1871	1870	1869			1868	1867	1866	1864	1861	1860	1858	1857	西暦
明治10	明治9	明治8	明治7	明治6	明治5	明治4	明治3	明治2			慶応4	慶応3	慶応2	元治元	文久元	万延元	安政5	安政4	元号
西南戦争が起きる。		上三川郵便局が開局する。		天然痘大流行、満七歳までを対象に種痘実施。	太陽暦採用。明治5年12月3日を明治6年1月1日と改める。	東京・宇都宮間運輸馬車会社が開業する。(所要時間15時間)	三本木村・坂上村において桑地開発計画が持ち上がる。	この年、東北地方を中心に凶作が起きる。	※このころ西木代の天棚が篠原要次郎によって作られるという。	西郷隆盛・勝海舟により江戸城が無血開城。	鳥羽・伏見の戦い	将軍徳川慶喜が大政奉還する。	多功村の百姓が、議定に背き立派な家を作り、村役人に止められ詫言状を書かされる。	天狗党の乱が起る。	三軒在家村を中心に洪水の被害が発生し、他所へ移転するものが多数あらわれる。	幕府は炎上した江戸城本丸の再建を計画し、諸国の寺社に対し、献金を募る。	米・蘭・露・英・仏と修好通商条約が結ばれる。	鷲宿村(白雲連川町源右衛門・喜及び荷主代阿久津河津助が、鬼怒川に出した筏と荷物を戻し返却した三軒在家村に対し、札状と酒2升を送る。	できごと